

歳時記の季題は、春夏秋冬に分けて、更にこれを時候、天文、地理、人事、動物、植物に小分してゐる、それから個々の事象に就て解説をしてゐる、草花の名前、動物の習性、年中行事などいろいろのことを覚える、歳時記はただ讀んでも楽しい。

花などは地方的に遅達がある、東京だと梅、桃、櫻、の順序だが、東北地方へゆくと、みんなほとんど同時に咲く、どうかすると櫻、梅、桃と言つた順序に咲く――。

また、花の名前が地方によつて異つてゐることもある、花魁草といふ花があるが、東北地方（盛岡あたり）では「あきしらず」と呼んでゐる、花魁草は東北地方では月見草のことである、夜ひらくので、さう呼んだものと思はれるが、もしそれが知らずに使はれたとすれば、同じ名前で全く異つた花が詠まれてゐることになり、鑑賞上、不都合が起り、二重の誤謬が行はれることになる。

また、こんなこともある、名前が全く反封になつてゐるのである、水馬と書いて、みづすましと讀み、あの、くるくる水面をまわる「まひまひ」のことを意味してゐることがある、ところが水馬（すいば）は「あめんぼう」のことで、水の上を長い肢でつうつうと走つてゐるのがそれである。

一度、かう間違つてしまふと、もうなかなか訂正が出来ない、水馬と水澄とこんがらかつてゐる俳句をよく見うける。

